事務事業名 松崎前新山線道路改良事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

基本事業:01 幹線道路の整備と維持管理

部名:都市建設部

課名:土木課

計画年度	平成10年度 ~ 平成23年度		事業区分	継続	会計区分	普通会計
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）					
市民、市道松崎前新山線	道路の拡幅と歩道や側溝の設置により道路機能を充実することで、利用者の安全と利便性の向上を図る。 道路の概要（現状） 山武市木原～山武市木原（山武南中学校） 総延長 2349m 幅員 4.0メートル 整備内容 L=877m 幅員 W=10.2m					
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	平成21年度					
道路利用者の安全性を確保し、利便性を向上させる	道路改良工事 L=100m 側溝工、縁石工、歩道・車道舗装工 工事費 10,909,500円					
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	年度当たりの市道松崎前新山線道路改良延長	m	100	100	180	-
活動指標	年度当たりの道路用地買収面積	m ²	0	0	0	-
成果指標	市道松崎前新山線道路改良済延長	m	480	580	760	877
成果指標						
事業費		千円	14,383	10,910	50,000	
うち一般財源		千円	13,454	10,910	50,000	
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い			市道を整備し利用者の安全や利便性を高めることは、道路管理者の責務であり、市の事業として実施することは妥当である。			
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業			幹線道路を改良することは、道路の安全性や利便性を高めることとなるため、基本事業への貢献度は高い。			
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他			本事業は幹線道路の安全性・利便性の向上を図るための事業であり、対象や意図を見直すことはできない。			
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない			成果は、順調にあがっている。 今後、事業規模が拡大することで、成果向上の余地は大きい。			
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない			近接路線に類似事業はない。			
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない			現場条件に合わせ最大限に成果が得られる施工方法を検討し、コストの縮減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。			